

第3学年 総合的な学習の時間

「緑のカーテンを作ろう」(24時間)

1 単元の目標

- ① 緑のカーテンを作ることを通して、地球温暖化という環境問題に関心をもち、友達の考えのよさを認めながら協力し合って調べ、地球温暖化を抑制するための方法を考える。
- ② 地球温暖化の環境問題に対して、自分にできることを考え、地球温暖化の抑制に向けた活動を実践することができる。

2 単元で育てたい資質・能力

◇自主・自律

「問題発見・解決力」

- ・提示された課題を基に、自分の課題を見付けること
- ・課題を解決するための方法を考え、実行すること

・地球温暖化という環境問題への対策について自分の課題を見付けるとともに、地球温暖化を抑制するための具体的な方法について考え、実践する。

◆人間関係

「人間関係形成力」

- ・互いのよさを見付け、違いを認め、話し合うこと
- ・他者の気持ちを考えて行動すること

・友達と互いの考えのよさを認め合って、地球温暖化について調べたことを発表したり、緑のカーテンにふさわしい植物について話し合ったりする。

□社会参画

「主体的に計画・行動する力」

- ・集団や地域の一員として自分のことを考え、活動すること

・地域の人のお話を聞いたり、緑のカーテンを作って環境について考えたりする活動を通して、地域の一員として、地球温暖化を抑制するために自分にできることを考え、行動する。

■未来の創造

「持続可能な社会の実現に向けた実践力」

- ・身近な生活体験や自然体験を通して、自分の考えをもち課題解決に向けて行動すること

・エネルギー消費に関する環境問題に関心をもちながら、持続可能な社会の実現のために自分にできることを実践する。

3 単元で扱う主な教育課題との関連

環境教育	・環境に関わる問題を客観的かつ公平な態度で捉え、環境の保全に寄与する態度を育てる。
再生可能エネルギー教育	・エネルギーの使用に関する問題の解決に向けて適切に判断し、自分にできる行動を考え、実践する態度を育てる。
持続可能な開発のための教育(ESD)	・人間を取り巻く環境において、持続可能な社会が実現することの大切さについて考え、自分にできることを実行する力を育てる。
ICT教育	・植物の成長をグラフ化することを通して、ICT機器を適切に活用する資質や能力を育てる。
メディアリテラシー教育	・学校図書館の活用を通して、地球温暖化について必要な情報を収集・処理し、発信・伝達する能力を育てる。

4 単元の指導計画 (24 時間扱い)

時間	主な学習活動・内容	育てたい資質・能力 ◇自主・自律 ◆人間関係 □社会参画 ■未来の創造 ★評価	指導上の留意点
1次 (3)	問 い を も つ 【夏を涼しく過ごす工夫を考える】 ○夏を涼しく過ごす工夫について、生活体験を基にして話し合う。(1/2) ・冷房機 ・扇風機 ・扇子 ・日よけ ○昔から暑さ対策として行ってきた取組がもつ日本人の知恵について調べる。(1/2) ・打ち水 ・すだれ ・よしず ・氷 ○打ち水やよしずの効果について調べる。(1) ・気温の違い ・体感の違い ○地球温暖化について調べ、抑制するための夏のライフスタイルについて考える。(1) ・エアコンの使用を控える。 ・エアコンの冷房の設定温度を上げる。	◇問題発見・解決力 ★地球温暖化を抑制するための対策について自分の課題を見付けている。	・夏を涼しく過ごす工夫として、現在行われなくなってきた暑さ対策については写真などで紹介する。 ・地球温暖化の原因については、発達段階を考慮して、絵図で提示して理解できるようにする。
2次 (15)	調 べ る 実 践 す る 【緑のカーテンについて調べる】 ○緑のカーテンの効果について調べる。(2) ○緑のカーテンの作り方を調べる。(3) ・ふさわしい植物 (ゴーヤ、ヘチマなどのウリ科の植物) ・作り方の手順や世話の仕方 ○緑のカーテンについてまとめる。(1) 【緑のカーテンを作る】 ○地域の方から緑のカーテンにふさわしい植物の育て方について話を聞く。(1) ○ゴーヤ等のウリ科の植物を窓際に植える。(2) ○緑のカーテンの効果について調べ、節電・省エネの取組について考える。(3) ・緑のカーテンを設置したことによる室内の環境の変化 ○「緑のカーテン新聞」をつくる。(3)	◆人間関係形成力 ★緑のカーテンの効果や作り方について互いの考えのよさを見付け、違いを認め、話し合っている。 ◇問題発見・解決力 ★緑のカーテンを作ることに主体的に取り組むとともに、その効果について考えている。	・あらかじめ地球温暖化について調べることができる本を学校図書館に用意しておく。 ・緑のカーテンを設置する場所や設置の仕方を確認しておく。 ・室内に温度計等を設置し、気温をグラフ化してデータを整理し、緑のカーテンによる環境の変化に普段から関心がもてるようにする。
3次 (6)	振 り 返 る 発 信 す る 【緑のカーテンプロジェクトを発信する】 ○地球温暖化の抑制に向けて、節電・省エネの取組について、自分たちにできることを考える。(2) ・待機電力をストップする。 ・シャワーの使用時間を短くする。 ・使わない部屋の電気をこまめに消す。等 ○地球温暖化防止に向けた節電・省エネの取組について発表する。(4) ・地球温暖化の原因や影響 ・緑のカーテンの効果 ・身近な生活での節電・省エネの取組 ・地域の一員として取組への意見表明 等	□主体的に計画・行動する力 ★節電・省エネの取組について、自分たちにできることを考えている。 ■持続可能な社会の実現に向けた実践力 ★環境の形成者として節電・省エネの取組について実践しようとしている。	・家族や関係機関の人などに、節電・省エネの取組についてどのような取組があるかインタビューすることで、具体的な話合いができるようにする。 ・節電、省エネの取組を継続して実践するように、朝の会等を利用して発表する機会を設定する。

第4学年 総合的な学習の時間

「ごみの減量化プロジェクトをしよう」(14時間)

1 単元の目標

- ① ごみに関わる環境問題について調べることを通して、ごみ減量化について関心を持ち、友達の考えのよさを認めながら協力し合って調べることができる。
- ② 持続可能な社会の形成を目指して、ごみの減量化のために自分にできることを考え、環境の保全に向けて行動することができる。

2 単元で育てたい資質・能力

◇自主・自律

「問題発見・解決力」

- ・提示された課題を基に、自分の課題を見付けること
- ・課題を解決するための方法を考え、実行すること

・ごみに関する環境問題について自分が取り組む課題を決め、その課題の解決に向けて調べる計画を立て追究する。

◆人間関係

「人間関係形成力」

- ・互いのよさを見付け、違いを認め、話し合うこと
- ・他者の気持ちを考え、行動すること

・ごみを減量化する取組について友達と協力しながら追究したり、話し合いによって友達と追究した内容を共有したりしている。

□社会参画

「主体的に計画・行動する力」

- ・集団や地域の一員として自分のことを考え、活動すること

・ごみに関する環境問題について調べたことから、地域の一員として、ごみの減量化のために自分にできる取組を考え、継続してできるように計画して取り組む。

■未来の創造

「持続可能な社会の実現に向けた実践力」

- ・身近な生活体験や自然体験を通して、自分の考えをもち課題解決に向けて行動すること

・自分で決めたごみの減量化に向けた取組の報告を行い、環境の保全に向けた活動を実践する。

3 単元で扱う主な教育課題との関連

環境教育	・ごみに関する環境問題に対して、自ら課題を発見し、その改善のために今できることを具体的に計画する力を養い、ごみ減量化に向けた実践を自ら進んで行う態度を育てる。
持続可能な開発のための教育 (ESD)	・ごみに関する環境問題に関して調べた情報を収集・選択し、ごみの減量化について取り組む活動を実践する力を育てる。
再生可能エネルギー教育	・持続可能な社会の構築を目指し、エネルギーや環境問題の解決に向け、主体的かつ適切に判断し行動できる資質や能力の基礎を培う。
森林環境教育	・森林で起きているごみに関する環境問題について調べ、森林環境を守ろうとする態度を育てる。

4 単元の指導計画（14 時間扱い）

時間	主な学習活動・内容	育てたい資質・能力 ◇自主・自律 ◆人間関係 □社会参画 ■未来の創造 ★評価	指導上の留意点
1次 (3)	問 い を も つ 【ごみの埋め立て地の課題を調べる】 ○社会科でごみの処理について学習したことを振り返り、興味・関心のあることを話し合う。(1) ・ごみの廃棄量 ・ごみの廃棄の影響 ・ごみを減量化する工夫や努力 等 ○東京湾の埋め立て地の状況を調べる。(1) ・埋め立て地の広がり ・廃棄物処理の限界 ○ごみの減量化のために、自分が取り組む課題を決め、調べる。(1) ・ごみを減量化する取組	◇問題発見・解決力 ★ごみの廃棄に関する状況から、ごみの減量化に向けての自分の課題を見付けている。	・社会科のごみ処理についての学習のまとめに書いた学習感想を提示して、興味・関心がもてるようにする。 ・埋め立て地の状況が分かるDVDを視聴して問題意識を高めるようにする。
2次 (5)	調 べ る 【ごみの減量化に向けた取組を調べる】 ○ごみを減量化するための家庭、行政、企業の取組について調べる計画を立てる。(2) ○ごみを減量化するための家庭、行政、企業の取組について調べる。(3) ・家庭… ごみの分別の実行 リデュース、リユース、リサイクルといった取組 ・行政… 資源の回収作業、回収ステーションの設置、啓発活動 ・企業… 包装の縮減、回収ステーションの設置、エコポイントの発行	◇問題発見・解決力 ★ごみを減量化する取組について取材や調査をして追究している。 ◆人間関係形成力 ★友達の考えのよさを認め協力しながら、追究した内容を共有している。	・同じ課題に取り組んでいる児童でグループをつくり、計画を立てるようにする。 ・実際に家庭、行政、企業がどのような取組をしているか取材ができるように、あらかじめ連携を取るようにする。
3次 (6)	振 り 返 る 実 践 す る 発 信 す る 【ごみの減量化に向けたプロジェクトをする】 ○ごみを減量化するためのプロジェクトの活動計画を立てる(1) ○ごみを減量化するためのプロジェクトに取り組む。(3) ・リデュース、リユース、リサイクルを家庭に呼びかけるポスターを作る。 ・地域に古紙回収を呼びかけるポスターを作る。 ・買い物にはマイバックを持参するように保護者に手紙を書く。 ・家庭にごみの分別を呼び掛ける。 等 【ごみの減量化プロジェクト発表会をする】 ○実際に取り組んだ活動を全校児童に向けて発表する準備をする。(1) ・家庭や地域でできる減量化の取組 等 ※全校朝会や児童集会において発表をする。 ○地域の一員として取組への意見文を書く。(1)	□主体的に計画・行動する力 ★地域の一員として、ごみの減量化に向けて自分にできることを考え、取り組んでいる。 ■持続可能な社会の実現に向けた実践力 ★自分が決めたごみの減量化の取組を実践しようとしている。	・家庭や地域でもごみの減量化に協力してもらうための取組を進めるために、PTAや地域の自治会と連携を取るようにする。 ・全校朝会や児童集会で呼びかけたり、ポスターなどを掲示したりして全校児童に伝えるように助言する。 ・発表会では、伝える相手を意識して発表内容や方法を考えるように助言する。

第5学年 総合的な学習の時間

「米作りからのおくり物」(29時間)

1 単元の目標

- ① 学校の水田から収穫された米やわら、もみがら、ぬかを使って生活に生かせるものを考えたり、作ったりすることを通して、自然の素晴らしさを理解する。
- ② 米作りで体験したことを発表する活動を通して、自分の身近な自然環境を大切にする自覚を高める。

2 単元で育てたい資質・能力

◇自主・自律

「問題発見・解決力」

- ・課題を見付けること
- ・課題を解決するための方法と手順を考え、これまでの経験を踏まえて実行すること

- ・生活経験を生かしながら普段食べている米の作り方を考えるとともに、米作りによってできた、わら、もみがら、ぬかから生活に生かせる物について情報を収集する。

◆人間関係

「人間関係形成力」

- ・互いのよさを発見し、違いを認め、話し合うこと
- ・他者とのことを考えて行動し、互いに認め合うこと

- ・友達と米がどのように作られているのか話し合ったり、役割を分担して稲を水田やバケツで育てたりする活動において、友達の考えを尊重したり協力したりして行動する。

□社会参画

「主体的に計画・行動する力」

- ・集団や地域の一員として自分に求められている役割を自覚し、自分にできることを考え、活動すること

- ・米作りで体験したことや米作りによりできた、わらを使って生活に生かせるものを作ったことについて、集団の一員として自分が担ってきた役割を振り返り、発表する。

■未来の創造

「生命を大切にする力」

- ・生命のかけがえのなさに気づき、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊び、環境保全に寄与すること

- ・米作りの体験や米作りによりできた、わら、もみがら、ぬかから生活に生かせる物を作る体験を通して、生命の尊さを感じる。

3 単元で扱う主な教育課題との関連

環境教育	・米作りを通して、水や土などの環境との関わりについて考える力を養うとともに、自然の恵みから作られた物は自然環境を汚さずに還元できることを理解させ、豊かな環境とその恵みを大切に思う心情を育てる。
持続可能な開発のための教育(ESD)	・米作りの大変さや満足感を感じるとともに、地域の人と交流し、米作りに主体的に参加しようとする態度を育てる。
森林環境教育	・自然からとれた物は、様々な利用できることや、最後は土に還るなど、自然界の循環の仕組みについて理解することで、森林と人とが共存する社会を実現する資質や能力の基礎を培う。
I C T教育	・コンピュータを使って米作りや自然界の循環を調べることを通して、I C T機器を適切に利活用する資質や能力を育てる。

4 単元の指導計画 (29 時間扱い)

時間		主な学習活動・内容	育てたい資質・能力 ◇自主・自律 ◆人間関係 □社会参画 ■未来の創造 ★評価	指導上の留意点
1次 (16)	問 い を も っ つ	【水田やバケツで稲を育てる】 ○普段食べている米が、どのように作られているか話し合う。(1) ・田んぼで作られている。 ・農家の人が作っている。 ・苗を植えている。 ○米の作り方を調べる。(1) ○稲を水田やバケツで育てる。(6) ・稲の生長 ・水の管理 ・除草 等 ○稲刈りをする。(2) ○米を収穫する。(2) ○わらを集める。(2) ○玄米を精米し、ぬかを取る。(2)	◇問題発見・解決力 ★普段食べている米の作り方に関心をもち、作り方を考えている。 ◆人間関係形成力 ★稲を育てる過程で、他者の気持ちを考えて協力しながら行動している。	・社会科の農業生産の学習と関連させて、作り方について想起するように助言する。 ・苗の段階から生長の記録を継続して書くことで、自分たちが育てている米として愛着をもたせるようにする。
2次 (7)	調 べ る 実 践 す る	【わら、もみがら、ぬかで、生活に生かせるものを作る】 ○生活に生かせる物について情報を収集する。(2) ・もみがら、ぬかを肥料として使う。 ・ぬかで石鹼を作る。 ・もみがらを湿気取りに使う。 ・わらで草履を作る。 ○自分が作りたい物を決め、グループに分かれて計画し、準備する。(1) ○生活に生かせる物を作る。(3) ○作った物を実際に使ってみる。(1)	■生命を大切にする力 ★米作りによりできた、わら、もみがら、ぬかが生活に生かせる物に還元することから、生命の循環に対する偉大さに気付いている。	・地域や校外学習で知り合った農家の人から、情報を収集する。 ・実物を提示して、興味・関心をもてるようにする。 ・作った物は、学校だけではなく、家庭生活の中で実際に使用してみるように助言する。
3次 (6)	発 信 す る	【自然の恵みを発表会で伝える】 ○体験したことや調べたことを発表する活動の準備をする。(3) ・発表原稿の作成 ○自然の恵みを伝える発表会をする。(2) ・稲の生長 ・手入れ ・もみがら、ぬかを利用した肥料 ・ぬかを利用した石鹼 ・わらを利用した草履 ・もみがらを使った除湿 等 ○活動を振り返り、学習感想文を書く。(1) ・米だけではなく、わらやもみがらも生活の中で役立つことが分かった。 ・米ができるまでに、長い時間がかかり、様々な苦労があることが分かった。 ・今後、自然の恵みに感謝して、自然を大切にしていこうと思う。	□主体的に計画・行動する力 ★集団の一員として、発表会で自分が担ってきた役割を振り返り、発表している。 ◇問題発見・解決力 ★米作りの過程を振り返り、自然からとれた物のよさについて自分なりに考えている。	・体験したことや調べたことを伝える相手を考え、実物を提示するなど、発表する方法や伝える手段を考えるように助言する。 ・苗から米ができるまでの過程をまとめた図表を提示して、その過程での工夫や努力にも着目するように助言する。

第6学年 総合的な学習の時間

「自然の宝庫、私たちの多摩川」(20時間)

1 単元の見目標

- ① 多摩川的环境について興味・関心を持ち、観察や調査活動を通して、多摩川がもたらす自然の恵みについて理解する。
- ② 多摩川的环境を改善してきた人々の営みに気付き、人々の暮らしと自然との共生を持続させるための行動について考え、実践しようとする態度を育てる。

2 単元で育てたい資質・能力

◇自主・自律

「学びに向かう力」

- ・自分でめあてを決めて、見通しをもって取り組むこと
- ・集中力や持続力を発揮して取り組むこと

- ・多摩川について自分の興味・関心のある学習課題を選択し、見通しをもって計画的に調べるとともに、調べたことの内容を取捨選択しながら、根気強くパンフレットにまとめる。

◆人間関係

「他者と協働する力」

- ・目標に向けて、多様な他者の考えや立場を理解して、他者と協力して行動すること

- ・多摩川について同じ学習課題を選択した友達の考え等を理解し、協力して調べるとともに、多摩川的环境保全に取り組む人との関わりを通して、礼儀のある行動や感謝の意を表す。

■未来の創造

「生命を大切にする力」

- ・生命のかけがえのなさに気付き、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊び、環境保全に寄与すること

- ・多摩川の恵みが、人々の暮らしや動植物に豊かさを与えていることに気付くとともに、川の汚れをきれいにした取組を踏まえて、未来に向けて環境保全のための行動を考え、発信・実践する。

3 単元で扱う主な教育課題との関連

環境教育	・多摩川的环境と人々の暮らしや動植物との関わりに気付き、身近な環境に関心をもつとともに、多摩川的环境をよりよくするための環境保全に寄与する態度を育てる。
持続可能な開発のための教育(E SD)	・多摩川的环境についての過去から現在の改善の様子を理解するとともに、その環境を持続させるための取組について関心を持ち、実践しようとする態度を育てる。
森林環境教育	・多摩川の恵みは、上流部の水源林によって維持されているため、水源林の手入れが重要であることに気付き、協力的な態度を育てる。
I C T教育	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を用いて、多摩川的环境や環境保全の取組について調べること、I C T機器を活用する資質や能力を育てる。

